

隨泉寺寺報

平成17年(2005年) 10月号 第422号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代經法要

講師 正覺寺住職 瀧淵良孝師

講題 「先祖に学ぶ」

『御たすけありたることのありがたさよと念仏申すべく候ふや、また御たすけあらうずることのありがたさよと念仏申すべく候ふやと、申しあげ候ふとき、仰せに、いづれもよし。ただし正定聚のかたは御たすけありたるとよろこぶところ、滅度のさとりのかたは御たすけあらうずることのありがたさよと申すところなり。いづれも仏に成ることをよろこぶところ、よしと仰せ候ふなり。』

蓮如上人御一代聞き書き

秋の永代經の法座です。永代經というのは亡くなられた方を偲び、ご恩を大切に伝えていくという尊いご縁です。今年もそれぞれの縁のある人には大切な人が亡くなられました。本堂の左余間に特別永代經の法名・ご芳名を記載したお軸があります。毎年これを奉懸させていただく時に、なつかしく、有り難く思い出します。

10月の法座予定

- 10月 9日.....掃除 下平原
- 10月 14日昼席午後1時より.....秋季永代經法要
- 10月 14日夜席午後7時半より.....出張法座 上平原
- 10月 15日朝席午前10時より.....若い婦人の集い
- 10月 15日昼席午後1時より.....秋季永代經法要
- 11月 2日午後6時より.....門信徒会本部役員会



若い婦人の集い

蓮如上人は『仏法は若き時にたしなめ。年をとると足は痛くなるし、眠たくもなる。』と仰せられました。そのうち、そのうちといっていたら、気が付いてみたら、足が痛くなり、耳も遠くなっていたという事になります。仏様のお慈悲は母心にたとえられます。子どもを育てる時に、きずかされる事も多いでしょう。今、子育ての時、仏法に遇っていただきたいものです。



灯茶会

9月の23日お彼岸の中日の日に今年も灯茶会を開催しました。去年は秋雨前線の影響で順延、順延となり結局開催できませんでした。今年も雨を心配していましたが、月は見れませんでした。予定通り開く事が出来ました。参加者は40名弱で少し寂しかったのですが、毎年参加して下さる人もあり、楽しい会でした。来年も開催する予定ですから一度見に来てください。



御礼

永代經懇志	金	参拾萬円	川本 慶子殿	故	川本 勝様	特別永代經志として
永代經懇志	金	拾萬円	大山 松雪殿	故	酒井 初子様	特別永代經志として
永代經懇志	金	拾萬円	出口 昭博殿	故	出口 秀雄様	特別永代經志として
永代經懇志	金	拾萬円	中原 洋子殿	故	中原 茂様	特別永代經志として
永代經懇志	金	拾萬円	荒野 稔 殿	故	荒野 義彦様	特別永代經志として

御礼

門信徒会へ	金	一封	川本 慶子殿	故	川本 勝様	香典返しとして
	金	一封	中原 洋子殿	故	中原 茂様	香典返しとして
	金	一封	荒野 稔 殿	故	荒野 義彦様	香典返しとして

御礼

井原の有志の方々が、本堂の裏山の竹や木を伐採してくださいました。本堂の屋根に枝が伸びてきたり、葉っぱが雨どいに詰まって、流れにくくなっていたので困っていました。有難うございました。

心優しき君なりき

夫が逝って早や四ヶ月が過ぎようとしています。
口数が少なく大きな声もせず、物静かに話す人でした。誠実で真面目で働き者で、私さえも近寄りがたい感じでしたが、感謝の日暮しの中に、心優しい人でした。

五十八年間共に歩んだ年月の美しい思い出のみが眼前に
展がり、脳裏を走ります。

長年ご近所でお花を習っている私に、四季折々の花を持ち
帰り黙って出水につけていてくれるのでした。



又早春の川土手より銀色に光る猫柳を求め、田植えの頃には高い朴
(ほう)の大木に花を見つけて持ち帰り、初夏には香り高いピンク色
の笹百合を胸一杯に抱きかかえて帰ってくれたことも幾度か！！
働く事が生き甲斐でしたから、元気であれば長靴に作業服を着て腰に
研いだ鎌を差す、そのスタイルが常でした。仕事の合間を見ては
「ちょっと行って来る」の言葉を残して一目散。歩幅大きくまるで跳ぶ
が如く山へよく出かけました。

春は草むら(ゴソ)の中から手の小指ほどの太く黒い蕨(わらび)を
どっさり袋へ入れて戻りました。又秋の収穫の終わりを待ち構えて、
自然薯(じねんじょ)堀に出掛け、夕暮れ迫る頃笑顔で戻ってくるの
でした。粘り強い自然薯の味が彼に似てるような気さえします。

その上ハスを作ること三十年位、友人から戴いた蓮根の種を絶やさず
作り続けました。朝夕蓮田の畦に立って花の数をかぞえるのは私でし
た。正月前に自ら傷をつけず、折らないように先の先まで入念に掘り
ました。しかも短時間に上手に掘りあげました。そして人様に上げる
のを喜びとしました。

長いようで短かった御縁、短いようで長かった御恩を思い出しながら
過ごす日々です。

合掌

犬連れて 優しき君の姿追い 薬師堂跡へ 今日も来てみる
最勝院釋帰道 川本勝 平成17年6月4日往生 妻 川本慶子

人間の尊いねうちは点数では表せない

カレンダー10月号 東井 義雄

10月

陽のあたらないことにも耐えられる根っこ
踏みつけられることにも耐えられる根っこ

見られないことにも耐えられる根っこ
陽のあたらないことにも 耐えられる根っこ
踏みつけられることにも 耐えられる根っこ
大地がコチコチに凍てついてる日にも
地の底から伝わってくる僅かな地熱に
感謝をささげ 生きがいを ふるいたたせている根っこ
ささえること 生かすこと
すばらしいものを創造させ年輪を刻ませること
それに生涯をかけて 沈潜しているもの根っこ
その根っこの上に運動場の大きいちょうの
あの たくましい 身構えがある。



日の光

金子みすず

おてんと様のお使いが そろって空をたちました。
みちで出会ったみなみ風、 (何しに、どこへ。)とききました。
ひとりには答えていいました。
(この「明るさ」を地にまくの、みんながお仕事できるよう。)
ひとりにはさもさもうれしそう。
(わたしはお花をさかせるの、世界をたのしくするために。)
ひとりにはやさしく、おとなしく、
(わたしはきよいたましいの、のぼるそり橋かけるのよ。)
のこったひとりにはさみしそう。
(わたしは「かげ」をつくるため、やっぱりいっしょにまいります。)

